

「津幡町弓道協会の紹介」

津幡町弓道協会
会長 瀬村 義弘

1. 沿革

昭和52年より、内灘町、宇ノ気町、高松町が次々と道場を建設する中で、昭和55年に津幡町弓道協会設立。その時協会員5名で町に道場建設を具申。道場建設に当たっては、多々異論もあったはずであるが、弓道の持つ生涯体育としての意義が認められ、道場の建設が決定された。郡内の各道場の建設が無言の後押しになり昭和56年に津幡町総合体育館弓道場が落成し、実質的活動に入ることとなった。

昭和61年に男子が県体で団体優勝の輝かしい実績を残した。



(津幡町総合体育館)



(2階にある弓道場)



2. 活動状況

月曜日の休館日を除いて午前9時から午後9時半まで(ただし日曜日は午後7時まで)練習ができる。ただ、平日は高校生が午後3時半から6時まで、土曜日は午前中、部活で利用していることが多い。

最近、住所移転や転勤、高齢により体の自由がきかず退会する協会員も増え、

活動が停滞ぎみであるが、弓道教室や以前当協会員であった方に声掛けし、会員増加に務めているところである。

弓道教室は5月から7月の間実施し、毎年数名の参加者がいるものの、引き続き会員になる人が少なく、どうしたら残ってもらえるか今後の課題である。

平成30年から高尾久和教士七段を講師に迎え講習会を春に開催している。参加者は10名程度だが基礎からわかりやすく、丁寧に教えていただき大変勉強になっている。

その他年間の諸行事は年10回の町の記録会、新年の「射初会」、納射会（射会後昇段者の祝賀会等）、年末大掃除、郡市体育大会、県民体育大会、年6回の郡市定例射会、郡市選手権大会、県連主催の大会、講習会、各協会主催の記念大会等に参加している。



(弓道教室)



(高尾先生による講習会)

3. 今後の展望

会員は19名（男11名、女8名）いるが、よく道場に顔を出す人は10名程度であり、会の運営には支障をきたしつつある。次代を担う20歳から50歳代の年齢層の人が少なく、また参四段の会員が少ない状況にある。いかにして会員を増やしていくかが急務となっている。特に若い人が増えてほしい。

指導は教士1名、錬士3名の称号者を中心に行っているが、その他の会員の協力も得ながら、みんなが仲良く、弓道を喜びとする規律ある協会になることを願ってやまない。